

日本アイ・ビー・エム株式会社
執行役員 岩野和生

アクセシブルな e-business を目指して

IBM東京基礎研究所でも20年近く、視覚障害者のために点字資料を作成するための、ソフトウェアの開発などの活動をはじめ、関係団体並びにボランティアの皆様とともに障害者の情報環境改善のための活動をしてまいりました。パソコンが世の中に普及し、単純にPCを使うという社会から、e-businessが普及し始め社会のインフラを通じ、生活、教育などの局面において、一般の人達が大きな影響を受けるようになってきました。私たちは、根本的に新しい技術がもたらす意味を自ら課し、そして問いかけています。

目の不自由な人、耳が不自由な人、障害を持った方々、そして、障害者を支えているボランティア、関係団体、企業にとってどういう意味があり、善意の総力を生かすため技術をどう生かすのかを考えるべきだと思います。

我々は、視覚障害者にホームページ・リーダーという音声ブラウザの開発からスタートしました。他の障害を持っているかたにもどういう技術が適用できるか、それはどういう意味があるか、さらにアクセシビリティを進めていくことを考えています。しかし、現状ではパソコンの利用、サービスのインフラとアクセシビリティには非常に大きなギャップがあります。新しい機器、技術が目覚ましい勢いで進歩していく中で、そのギャップは大きくなるばかりです。

過去30年間、ムーアに代表されるように、CPUのパフォーマンスが2倍になり、あと10年以上、それが続くと1000ドルで人間の脳の機能をもったCPUが買えると言われていきます。IBM e-business オンデマンドと言っていますが、ビジネスのやり方や生活の仕方など方法が変わってきて、大きなデジタルデバインドであると言われていきます。根本的に技術が進歩し、どういう技術を育て、どう使うかは人間の英知を結集していかない限り、良い社会はやってこないだろうと思います。

コミュニティを大事にしながら、技術のひとつひとつの使い方の方向性を示せればと思います。このフォーラムが大きなコミュニティに発展するように働きかけていきたいと考えています。